

ようこそ『みちのく妖怪ツアー』の世界へ ～物語に込めた東北への想い～

図書館にお寄せいただいた質問の中から、講演会の中で先生方にご回答いただいたものを紹介します。

Q1. 好きな妖怪は何ですか。

A. 自分が書いた妖怪にはどれも思い入れがありますが、あえて選ぶなら「たんころりん」です。柿の妖怪で、名前の面白さとそれほど怖くないところが気に入っています。
(佐々木先生)

Q2. 東北には、妖怪の出てくる様々な民話がありますが、素話として語り継ぐことや、子供に語ることの意義についてどのようにお考えですか。また、どこの地区のどんなお話が好きですか。

A. 妖怪は一つの「落としどころ」となる役割があります。例えば、川の氾濫は大蛇があばれたと語られていたり、道に迷ったのは妖怪のせいだと語られていたり。人間に都合の悪いことを妖怪が引き受けてくれていることもあります。妖怪が語り継がれているのは、そうした意義があるのではないのでしょうか。また、泉区の「山の寺」は妖怪ワールドです。ぜひ、行ってみてください。(野泉先生)

Q3. 昔話には残酷な場面が多く出てきますが、絵本では残酷さを和らげて描写されることがあります。先生方にとって、マイルドに表現された昔話はどこまで許容できるものですか。

A. 個人的な見解ですが、昔話が残酷に描かれるのには意味があると思います。昔は、昔話を語るそばに家族がいて、フォローがありました。自分の感性を信じて伝えて欲しいと思います。残酷だと感じる表現には、言葉をそえるなどの工夫があると良いのではないのでしょうか。(堀米先生)

Q4. 小学校高学年に読んでもらいたい本や、おすすめの本を教えてください。

(自著からそれぞれお答えいただきました)

A. 野泉先生「満員御霊！ ゆうれい塾」シリーズ

堀米先生「ゆうなとスティービー」

佐々木先生「ストーリーで楽しむ伝記 伊達政宗」